

授業の概要

成長・発育を基盤とする歯科学である小児歯科学について基礎知識を学び、成人の歯科学・歯科技工学との相違を理解する。後期では、前期で修得した小児歯科の歯冠修復物、咬合誘導装置の特徴、適応症、構造を顎・顔面の発育、歯列・咬合変化の側面から理解する。

- 教科書：最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版）
- 授業時間：金曜日（偶数日）18：00～18：45
- オフィスアワー：武井 浩樹 (takei.hiroki@nihon-u.ac.jp) 金曜日 17：00～17：45
- 成績評価：前期：定期試験の成績（45%）、平常試験（5%）
後期：定期試験の成績（45%）、平常試験（5%）で評価する。
平常試験後に解説を行いフィードバックする。
- 注意事項：事前に教科書を熟読し予習をすること。
- 授業方法：講義形式、第8回に平常試験を行う。
- 準備学習：事前に教科書で講義項目を確認しておくこと。
- 準備学習時間：講義時間と同等の時間の予習と復習を各自で行うこと。
- 実務経験：武井 浩樹：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院の経験を基に歯科医師の立場から小児期の歯冠修復および咬合誘導装置を製作させるためには、本教科で学ぶ内容の理論がいかに実際に活かされるか講義していく。

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第1回9月13日 （奇数日） 武井 浩樹	1. 歯、顎、顔面の成長発育（1） （教） pp. 6-33	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長発育段階を説明できる。 ・ 成長発育と年齢を説明できる。 ・ 顎、顔面の成長発育を説明できる。 ・ 無歯期から乳歯列期までの成長発育を述べることができる。
第2回9月27日 （奇数日） 武井 浩樹	1. 歯、顎、顔面の成長発育（2） （教） pp. 6-33 2. 乳歯の歯冠修復 （教） pp. 34-37	<ul style="list-style-type: none"> ・ 混合歯列期から永久歯列までの成長発育を説明できる。 ・ 乳歯の歯冠修復では、乳歯の歯冠や歯髓腔形態を考慮する必要があることを学び、乳歯の歯冠修復で乳歯冠が多用される理由を説明できる。
第3回10月25日 （奇数日） 武井 浩樹	3. 咬合誘導（1） 保隙装置① （教） pp. 38-50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳歯の早期喪失により隣在歯が移動することを学び、保隙は後継永久歯の萌出余地の確保に重要であることを説明できる。 ・ クラウンループ、クラウンディスタルシ

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第4回 11月8日 武井 浩樹	3. 咬合誘導 (1) 保隙装置② (教) pp. 38-50	<p>ユーの適応症や作製方法を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳歯の早期喪失により隣在歯が移動することを学び、保隙は後継永久歯の萌出余地の確保に重要であることを説明できる。 ・ クラウンループ、クラウンディスタルシユの適応症や作製方法を説明できる。
第5回 11月22日 武井 浩樹	3. 咬合誘導 (2) 保隙装置③ (教) pp. 51-60	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保隙装置の役割を説明できる。
第6回 12月6日 武井 浩樹	3. 咬合誘導 (2) 保隙装置④ (教) pp. 51-60	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナンスのホールディングアーチ、舌側弧線型保隙装置、可撤保隙装置の適応症や作製を説明できる。
第7回 12月20日 武井 浩樹	3. 咬合誘導 (3) スペースリゲイナー 口腔習癖除去装置 4. 咬合誘導装置に用 いる維持装置 (教) pp. 61-80	<ul style="list-style-type: none"> ・ スペースリゲイナーによる第一大臼歯の遠心移動方法を説明できる。 ・ 歯列弓幅径の拡大装置を説明できる ・ 口腔習癖による歯列への影響を説明できる。 ・ 習癖除去装置の種類、構成を説明できる。 ・ 維持装置の種類、作製を説明できる。
第8回 1月10日 武井 浩樹	5. 前期後期まとめ 6. 平常試験と解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期、後期の講義内容に関する平常試験と解説を行い、理解度を深めることができる。